
リボーン×マイソロ3 + エクシリア雪、舞い散る

カラオケ大好き

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リポーン×マイソロ3+エクシリア雪、舞い散る

【Nコード】

N1887Z

【作者名】

カラオケ大好き

【あらすじ】

ルミナシアに平和が戻り、アドリビトムは、解散……………と思ったら、突如世界樹が光り出し、気が付くと……………これはリポーンとテイルズオブザワールドレディアントマイソロジー3のクロスオーバーです。オリジナルでエクシリアの人達が数人アドリビトムにいます。

只今、オリジナル編執筆中

キャラ設定（前書き）

初の連載です。皆様アドバイスを下さい苦情でも構いません。意見を下さい！

キャラ設定

キャラ設定

雪月せつき 桜花おうか

年齢：外見14歳

性別：女

見た目：白っぽいピンク（翼曰く桜色）を肩くらい伸ばしてる。また、頭に左右にリボンを付けたカチューシャをしている。目の色は薄い緑

好きな物・事：友達アドリビトム、雪、月、桜、翼（恋愛感情）、料理

嫌いな物・事：友達・アドリビトムに害を齎す奴ら、ボンゴレファミリ（ウ、アリアーは友達）、勉強、マフィア

性格：友達とアドリビトムには明るく、その他は冷たい。

神裂かんさき 翼つば

年齢：17歳

性別：男

見た目：黒い髪をツンツンにしている。目の色は碧色。

好きな物・事：アドリビトム、桜花が認めた人達、伝説、神話、親分と剣の手合わせをすること。

嫌いな物・事：アドリビトムに害を齎す奴ら、神話と伝説をオカルトと侮辱する奴ら、マフィア。

性格：普段は爽やかで明るいが、嫌いな奴らには普段の彼とは思えない冷たい目つきで睨む。

佐々木ささき 八重やえ 年齢：12歳

性別：女

見た目：ハニーブロンドの髪を結び目の所を三つ編みにしたツイン

テール。目の色は、赤紫色

好きな物・事：甘い物、またソレを作れる人、可愛い物、翼（恋愛感情）

嫌いな物・事：自分の使命・宿命、自分自身、友達以外の人

性格：冷たい印象が有るが本当は只の人見知り（嫌いな人には本当に冷たい）。可愛い物・甘い物を前にすると、歳相応の表情になる。

佐々木 ササキ 零 ゼロ

年齢：22歳

性別：男

見た目目：ハニーブロンドの髪を腰くらい伸ばして、一つに結んでい
る。目の色は、銀色。

好きな物・事：刀の手入れ、刀集め、翼と手合わせ

嫌いな物・事：人を傷付ける奴、偽善者

性格：表情が固く、何を考えているのかよく分からない。生き別れ
た妹を探している。意外と面倒見が良い。

オリジナル属性：雪

役目：「ファミリーに害を齎す者を覆い溶け逝く雪」

ボンゴレの雪の守護者：桜花（本人は守護傭兵と言っている）

雪のアルコバレーノ：八重（零は才能が無いと言われ家を追い出さ
れた）

ウァリアーの雪の守護者：翼

キャラ設定（後書き）

コメントを待っています。

プロローグ

ルミナシアの問題点だったホスチアの問題も解決し、デイセンドアの少女、雪月桜花も帰って来た。このアドリビトムも預かりのメンバーは今日、アドリビトムから解散することになった。

「淋しくなるわ。居なくなるなんて」とアドリビトムのリーダーのアンジュは呟いた。すると、「オ……オイ！世界樹が……」とメンバーの誰かが唐突に叫んだ。皆、世界樹を見ると「世界樹が……光ってる……」そう、世界樹が光っているのだ。余りの眩しさに皆目を閉じた。そして目を開けたら、そこには「……男の……人？」男の人が居た。

始めに

始めに

この小説は、私の趣味です。だから更新は不定期です。またオリジナルキャラの男、翼が恋愛フラグを建てまくりませう。OKな方のみにスクロールして下さい。

翼に恋愛感情を抱くキャラ達

オリジナル：雪月桜花、佐々木八重 2人
マイソロ3：カノン・
グラスバレー、リタ・モルディオ、プレセア・コンバティール 3人
リボン：笹川京子、凧（クローム髑髏）、ユニ 3人
合計8人

この小説は、先ずは桜花か八重のどちらかEndを執筆しますが、本編が終わったら他のキャラのルートも執筆して行きたいと思っています！

駄文だし、不定期更新ですが、頑張ります！

新たな戦いの幕開け（前書き）

自分がイメージしているこの小説のOPとEDを書きます。

第一期OP：Flyaway（テイルズオブザワールドレディアン
トマインロジール2 OP）

第一期ED：蒼い春（TVアニメ「生徒会役員共」ED）

新たな戦いの幕開け

あらずじ……世界樹が突如光り輝き、光が収まった時、アドリビトムの拠点バンエルティア号の甲板に、ハニーブロンドの髪を腰くらいにまで伸ばしている謎の青年が気絶していた……………

「……………とにかく、彼を医務室に運んで。それから、何かあった時の保険として、皆には悪いけど……さっきの人が目を覚ますまで此処に居てくれる？」と、アンジユが創設時代以外のメンバーに問い掛けた。皆、暫くの間は居てくれると言ってくれた。しかし、黒髪の青年ユーリ・ローウエルが、「嫌な予感がする……」と言って皆から怒られた。彼の悪い予感は良く当たるので、怖いのだ。「……私、あの人の様子、見て来るね」と言い、桜花は医務室に向かった。

〈？視点〉

オマエハサイノウガナイ　オマエハモウイライナイソンザイダもう
何度も言われ続けければ、俺は大人達の悪口にも感じなくなった。
俺は才能が無い。ソレは俺が一番分かっている。オオ　ウマレタ
ツイニ　ウマレタ　サイノウヲモツコガ　ミコガ待てお前達、あんなふざけた事をこの子にも行わせるのか！

オマエハモウイライナイ　ミコガウマレタカラ　サイノウガナイオマエハ……デテイケ
待て！待ってくれ！
けど、遅かった。段々と遠ざかる。あの子……名前も知らない妹が……自分勝手な親のせいだ……

「……やめ……る……」

〈？視点End〉

「……やめ……る……」とうなされ声が聞こえ、桜花は医務室のベッドで

眠る青年に視線を向けた。そこには、銀色の瞳で何度も部屋を見回している青年がいた。

「大丈夫？あなた、空から降って来たもん。驚いたよ」と桜花は青年に言った。「そうか…ところで、此処は何処だ？窓の景色を見ても、並盛とは思えないが」と、青年は桜花に尋ねたが桜花は青年の言った並盛というのが分からなかった。つまり、この青年はカイル達同様、ルミナシアでは無い世界から来たということを表している。「…えーと…此処は並盛じゃなくて、ルミナシアっていう世界。つまり、あなたは異世界に来たの。そして此処は、ギルド「アドリビトム」お金を支払えば、その依頼を行うの」と、桜花は青年に説明した。青年は暫く考え込み、桜花に言った。「…俺の依頼を聞いて貰えるか？」

コレが、新た戦いの幕開けの瞬間だった

新たな戦いの幕開け（後書き）

感想、お待ちしております。

零の依頼（前書き）

あらすじ

目覚めた零から依頼を聞こうとした桜花だったが、アンジュに起きたら連れて来てと言われたので、2人は、アンジュの居るバンエルトティア号のホールに向かった…

零の依頼

依頼を聞く前に、彼佐々木 零が目覚めたということで、一度彼をホールに連れて行った。

ホール

「皆。あの人起きたよ」と、桜花はアンジュとホールに居るメンバーに報告した。「起きたね。ソレで、桜花が依頼が有るって言つてたけど、何か依頼が有るのですか？」と、アンジュ・セレーナが青年、佐々木零に問い掛けた。「ああ。俺の依頼は、生き別れた妹を助け出すことだ。名前は知らんが佐々木という名字と俺と同じハニーブロンドの髪が特徴だ。後、妹はこのルミナシアでは無い並盛…つまり異世界からの人間だから、まずは、並盛へ帰る方法を探してくれないか」と、言い零はホールを離れようとしたら、「待つて」と、アンジュに呼び止められた。「依頼は良いけど、相応の報酬を貰うわよ。あなた、所持金はいくらかしら？」と、アンジュは言った。このシスター、金に貪欲である。と、思ったが声に出してはいけない。と、感じた零だった。

その後、零は母親の形見のペンダントを渡そうとしたら、皆から却下され、アドリビトムのメンバーになるということになった。

零の依頼（後書き）

次回予告

零をメンバーに入れ、今まで以上に賑やかになったアドリビトム（祖国に帰る予定のメンバーは引き続きメンバーとして残った）果たして並盛へ行く方法は見つかるか？

次回、異世界への行き方

最強パーティー（前書き）

あらすじ

アドリビトムに入った零。しかし、突然の惨劇を前に……

最強パーティー

「じゃあ、メンバー登録しておいたから。今日からよろしくね、零」
「承知」

これを期に、佐々木零はアドリビトムの一員になった。

（零視点）

俺、佐々木 零は只今ピンチである。

ソレは俺がアドリビトムに入り、数日後のことだった。

俺は今日も依頼を熟し、バンエルティア号に帰って来た時のことだった。しかし、帰って来たらバンエルティア号に居るメンバーが全員倒れていた。そして、バンエルティア号中に漂う謎の異臭（嗅ぎすぎたら嗅覚が麻痺した）一体、何が起こったのか？と、思ったら、

「あ、零」「良い所に」「ねえ零。私達ね、料理を作ったの」と、
アーチェ・クライン、リフィル・セイジ、ナタリアの3人。別名

必殺 料理人 が俺の前に立ちはだかった。つまり、倒れているメンバーはこの3人の料理を食べさせられたようだ。そして、今此処に居る味見係は俺だけ。つまり、「」「食べてくれる？」「」と、案の定言われた。皆が言っていた敵はメンバーの中にも居る。というの正にこのことだった。済まない、妹よ。俺はお前をあの家から救い出す前に逝くかもしれぬ。覚悟を決め、俺は悪魔の巣（食堂）に向かった。その後のことは余り覚えていない。だが、目覚めたらソコは医務室だった。話によると、あの後バンエルティア号に帰って来た桜花・翼・カノン・プレシアの4人が3人を見事倒したそう。流石アドリビトムの最強パーティーだ。

（零 視点End）

アドリビトム毒殺未遂事件から数日後、並盛へ行けないアドリビトムのメンバーの元にとある人物がやって来た。

「なあ、お前達。世界樹が可笑いなんだ。見て来てくれるか？」と、

金髪の美女、ミラ・マクスウェルから依頼が来た。並盛に行く方法かもしれないので、最強パーティーに、零と分析担当のリタを連れて世界樹へ行くことになった。

世界樹の洞窟

世界樹はルミナシアの始まりの樹だ。だからその大きさは、空を飛べる船バンエルティア号に乗って初めて解るのだ。まるで、天に届く様な大きさを誇る世界樹。その樹の根本の所に、根と根同士がアーチを作った様な洞穴が有る。ソコが 世界樹の洞窟 だ。

「世界樹がおかしいって、何があったんだろ…」と、桜花が呟いた。「とにかく、もしかしたら並盛に行ける手がかりが有るかもしれないわよ。速く行きましょ」と、リタが言い、一行は歩きだした。

最強パーティー（後書き）

次回予告

世界樹の奥にたどり着いた桜花達。そこで目にしたものは……
次回、異世界トンネル

異世界トンネル（前書き）

あらすじ

世界樹の様子が可笑しいということと、世界樹の洞窟に来た桜花達。
そこで目にしたものとは……

異世界トンネル

出てくる魔物を倒しながら、桜花達は世界樹の奥を目指す。「着いた。此処が世界樹の洞窟の奥だ」と、翼が言い桜花達はソコで有るものを見た。それは、空間の歪みだった。それからリタはすぐに歪みの解析を行った。「…この歪み、どこか別の世界に繋がってる。もしかしたら並盛に行けるかもしれない。つまり、コレはある種の異世界トンネルってこと」と、リタが解析を終わらせ言った。「では、並盛に行けるのか!？」と、零が尋ねた。コレで妹をあの家から救い出すことができる。と、思って空間に近づこうとしたら、皆に止められた。「落ち着け。まだアレが並盛に繋がってるかが分からない。たとえそうだったとしても、まずはあの歪みを調整しないと、変な所に転移させられる」と、翼が説得し、零は踏み止まった。「じゃあ、私が空間を調整するついでに偵察するよ。それならこの歪みを調整できるし、並盛に繋がってるかも分かる。一石二鳥よ。並盛のことなら、よく零が話しているから想像は付くわ」と、桜花が言った。「…分かった。でも、無理はするしないで。ヤバいと思つたらすぐに引き返すこと。いいね」と、カノンノが言い、「桜花さん…必ず帰って来て下さい。貴女の居なかつた3ヶ月、アドリビトムは、淋しかったです」と、プレセアが言った。「…分かったは絶対に無茶はしない」と、桜花は言い、「…行ってきます」と、言つて空間に飛び込んだ。

桜花は、歪んだ空間を少しずつ調整しながら、前へ進んだ。そして、調整しながら歩くこと数時間、目の前に光が差し込んだ。桜花は覚悟を決め、光へ飛び込んだ。

桜花が、空間に飛び込んだ頃、世界樹の洞窟では零が翼達から桜花の話聞いていた。「ディセンサー?」「嗚呼。ルミナシアは3ヶ月前までは、ホスチアを巡って色んな国が戦争をしていた。しかも、

今はもう平気だがホスチアが枯渇するたびに戦争は激しくなった。そんな時に現れたんだ。ルミナシアに伝わるお伽話に出てくる『世界樹から生まれ、ルミナシアを救済する勇者』。ディセクターが。そのディセクターがあの子、桜花だ。桜花は、普通の奴らには出来ないホスチアの操作をやることが出来た。その時は、俺達はディセクターみたいとしか見てなかった。だけど、セルシウスが言った。あの子が、ディセクターだと。それでまあ色んなことがあって、今はこうして平和なんだ。それで、お伽話だと、ディセクターは世界樹に還っちゃうけど、俺達の知ってるディセクターは戻ってきた。以上。コレが桜花の真実。だが、あの子はアドリビトムのメンバー、大切な仲間だ」(…だから、無茶…するなよ…)

光に飛び込んだ桜花は、たどり着いた。零の暮らしている世界に。

「…此処が…並盛…」彼女がたどり着いた所は並盛神社という所だった。後ろを振り向くと、神社の後ろに有る林から、ホスチアの流れが見えた。深追いは禁物と思い、桜花はホスチアの流れを追う様に林の中に入って行った。

桜花が、並盛にたどり着いた頃、空間の観察をしていた翼達にも変化が訪れた。「歪んだ空間が、正常なワープ空間になった!」と、リタが叫んだ。ソレは、桜花の偵察が成功したということだった。そしてその数十分後、桜花は帰って来た。「ただいま!あとこの空間、やっぱり並盛に繋がってた!」と、言った。「…そうか」と、桜花の報告を聞いて零は安堵のため息を出した。「まあ今回は、あくまでも空間を確かめる依頼だったから、並盛に行くのは明日にしよう」と、翼が言い、一行はバンエルティア号に戻って行った。

〈数十分前〉

並盛への空間トンネルを完成させて、戻ろうとした桜花だったが、「あの子を…あの宿命から解放して…お願い…誰か、私の声を聞いて…」と、泣いている女性の声が聞こえた。「…!?誰だ!」と、

スカートに隠れている足の部分に付けているホルダーから、二丁拳銃を引き抜き辺りを警戒する桜花だったが、まるで今の声は空耳だったかの様に、林にはただ静寂が訪れていた。（…気のせい？）と思えば桜花は空間が繋がれている古い鳥居をくぐって行った。「来てくれた。私の声が聞ける人が…やっと、私達は救われる」という女性の声が聞こえた様な気がした。

異世界トンネル（後書き）

次回予告

並盛に来た桜花、カノンノ、リタ、プレセア、冀、零。冀に好意を抱いている4人は、冀にとある選択をさせる。そして、また新たなイバルが生まれる！？

次回、並盛偵察デート（桜花ルート）

今回は遂に分岐ルート話です！

並盛偵察デート（桜花ルート）（前書き）

今回は遂に分岐ルート！

並盛偵察デート（桜花ルート）

並盛へのトンネルを完成させた次の日、昨日と同じメンバーで、再び世界樹の洞窟にやって来た。

今回は、並盛に偵察に行くのだ。桜花達は、トンネルをくぐって並盛に轉移した。

「此処が並盛だ」と零は言い、妹を探すために、手分けして探すことになった。零は商店街、リタは並盛中学校の方面、プレセアは中央公園、カノンノは住宅街、桜花はオシャレなグッズの店が立ち並ぶ街の方面を探すことになった。しかし、翼だけが探す場所が無かった。すると、「では、翼は4人の内の誰かと行動をすればいいと思う」と、言い零は「では17時に神社に集合だ」と、言い去って行った。「…じゃあ…」

雪月 桜花は今、究極の緊張状態だった。その理由は、「大丈夫か？桜花」そう。好意を抱いている少年、神裂 翼と二人つきりなのだ。

「数分前」「じゃあ…桜花。一緒に行くか？」と、言い翼は桜花と共に探索に向かって行った。

カノンノ視点

「…はあ…」と、私カノンノ・グラスバレーは何度なのか分からないたため息を吐いた。翼が、桜花を選んだ理由はきつと何と無くだと思ふ。

私は…ううん。私と桜花とリタとプレセアは、神裂 翼のことが好き。しかも4人共、恋愛感情の好きなんだ。そこで、私達はとある団体を作ったの。【この中の誰が選ばれても、後悔しない様に、恋に精進せよ団】通称、【KKKK】団を創立させた。コレは、いつか

私達は彼に告白をする。その時、彼が誰を選んでも後悔しない様に、自分の好意を彼に気付かせる。という名目で造った団体だ。だけど、彼：翼は凄く鈍感で、全く進展しないんだ。「…はあ…」私はもう何度なのか分からないため息を吐いた。

カノンノ視点End

「ねえ、翼。何で私を選んだの？（多分何と無くかな）」と、桜花は翼に問い掛けた。すると翼は「ウーン…何と無く」と、桜花とカノンノの予想通りの答えを返した。（やっぱり…でも、今回は少しでも翼に私の気持ちに気付いて貰うんだから！）と、決意をし、桜花は翼と街を歩き出そうとしたら、ナンパされている少女を見た。

「君、かわういーね」「俺達と一緒にランデブーしない？」「…：（携帯を取り出す）」と、3人のチャラ男に囲まれて困っている少女。周りを見るが、周りの人達は皆、見て見ぬフリをし、通り過ぎて行く。または、遠目から見ていてだけで、少女を助ける人は出てこなかった。…2人を除いて…「オイ。その子困っているだろ。離れるよ」「てか、貴方達も他人のフリをせずに助けなさいよ！」と、言いながら翼と桜花は3人の所に来た。「何だテメエ達は？」

「なあ、あのメッシュの子も可愛くね？」「…：（携帯を構える）」と、チャラ男達は言うが、「桜花。あの子を頼む。俺はあのチャラ男達をぶん殴る」「リョーカイ」と、チャラ男達の話を見無視した。「テメエ達、オレ様達の話を見無視することは、病院送りってことを意味するぜ」と、言い、チャラ男達はナイフやバットを取り出した。しかし、2人は怯むこと無くむしろ近づいて行った。そして、先ずは携帯を持っているチャラ男の携帯を目に見えぬ速さで奪い、破壊した。「…：（俺の携帯が…）」と、驚愕しているチャラ男を背後から、桜花が背中にし蹴りを喰らわせて転ばせた。その後桜花はナンパされていた少女を連れ、翼の様子を見た。

翼は先ずはナイフを持ったチャラ男の懐に潜り込み、「破壊拳！」と、拳を相手の腹にめり込ませて、アッパーを喰らわせた。次に先程桜花に蹴られて転んでいたチャラ男が起き上がり、近くにあり、

った鉄パイプを持って走るが、翼はソレを簡単に回避し、「壊芯脚！」と言いながら、相手に蹴りを入れた。相手は5Mくらい飛ばされた。バットを持ったチャラ男はソレを見て逃げようとしたが、「三斬華」と言いながら、拳の三連突きを喰らわせた。「君、かわういーね」「俺達と一緒にランデブーしない?」「…(携帯を取り出す)」と、3人のチャラ男に囲まれて困っている少女。周りを見るが、周りの人達は皆、見て見ぬフリをし、通り過ぎて行く。または、遠目から見ているだけで、少女を助ける人は出てこなかった。…2人を除いて…「オイ。その子困っているだろ。離れるよ」「てか、貴方達も他人のフリをせずに助けなさいよ!」と、言いながら翼と桜花は3人の所に来た。「何だテメエ達は?」「なあ、あのメツシユの子も可愛くね?」「…(携帯を構える)」と、チャラ男達は言うが、「桜花。あの子を頼む。俺はあのチャラ男達をぶん殴る」「リョーカイ」と、チャラ男達の話を見無視した。「テメエ達、オレ様達の話を見無視することは、病院送りつてことを意味するぜ」と、言い、チャラ男達はナイフやバットを取り出した。しかし、2人は怯むこと無くむしる近づいて行った。そして、先ずは携帯を持っているチャラ男の携帯を目に見えぬ速さで奪い、破壊した。「…(俺の携帯が…)」と、驚愕しているチャラ男を背後から、桜花が背中にし蹴りを喰らわせた。その後桜花はナンプアされていた少女を連れ、翼の様子を見た。翼は先ずはナイフを持ったチャラ男の懐に潜り込み、「破壊拳!」と、拳を相手の腹にめり込ませて、アツパーを喰らわせた。次に先程桜花に蹴られて転んでいたチャラ男が起き上がり、近くにあった鉄パイプを持って走るが、翼はソレを簡単に回避し、「壊芯脚!」と言いながら、相手に蹴りを入れた。相手は5Mくらい飛ばされた。バットを持ったチャラ男はソレを見て逃げようとしたが、「三斬華」と言いながら、拳の三連突きを喰らわせた。周りからは拍手が湧いたが、翼と桜花は周りの人達を睨みつけ、少女を連れてこの場から離れた。

「君、大丈夫か？」と、翼はナンパされていた少女に問い掛けた。
「うん平気。ありがとう、助けてくれて」と、少女は言った。「そ
うか。なら良かった。そうだ。君、この辺の人で、ハニーブロンド
の髪の女の子って、知ってるか？」と、翼は少女に尋ねたら、「も
しかして八重ちゃんのこと？」と、少女は言った。「…！？君…っ
て、今更だけど君の名前を覚えてくれる？俺は神裂 翼」「そう。
私は、笹川 京子。よろしくね、翼君。それで、八重ちゃんのこと
だっけ。八重ちゃんは私の通ってる並盛中学校の私のクラスの委員
長だよ」と、翼の質問に京子が答える。すると、「翼、君。ジュー
ス買って来たよ」と、言いながら、桜花が戻ってきた。「センキュ
ー。あと、この子の名前、京子っていうんだ」と、翼は桜花からジ
ュースを受け取りながら言った。「私は雪月 桜花よ。よろしくね、
京子」「うん！よろしくね、桜花ちゃん」と、言い桜花達はジュー
スを飲みながら、佐々木 八重について京子から聞ける限り聞いた。
それから一緒に街を見て廻った。一緒に遊んでいると、もう16
時45分だった。「あ…京子。そろそろ俺達帰るけど…」と、言い、
翼は京子にとある箱を渡した。「付き合ってくれた御礼だ。ありが
とな」と言い、翼は京子の頭を撫でた。すると京子は顔を赤くして
俯いた。「(なっ…ライバルが増えた！？)翼！さつさと行くよ！
じゃあね京子。今度その、おいしいケーキ屋のこと教えてね！」と、
言い桜花は、翼を連れて走り去った。

〈京子視点〉

【今日は、桜花ちゃんっていう、友達だけどライバルの女の子と、
翼君っていう…人に出会いました。それで、翼君のことを思うと、
顔が熱くなります。もしかしたら、私…翼君に…恋をしたのかもし
れない。】と、日記を書き終えた私は、目線を日記帳の隣にある物
に向けた。ソレは、今日の帰りに翼君がくれたオレンジ色と黄色の
チエック模様のヘアピン。(…神裂 翼君…か)と、翼君のことを

思ったら顔が熱くなり、私はソレを紛らすためにベッドにダイブした。

私、笹川 京子は……神裂 翼に恋をした。(京子視点End)

「あつ。そうだ、桜花。お前何かとある店でコレを見てただろ」と、言い翼は桜花に物を渡した。ソレは、左右に黄緑色のリボンが巻かれている茶色のカチューシャだった。「何か…桜花コレ見てたし、あと…個人的な意見だけど、このカチューシャお前に似合いそうな気がしたんだ。桜みたいで…」と言い、翼は歩き出した。桜花は、その翼の背を追う様に歩き出した。

「じゃあ、報告する。まずは俺達から。零の妹の名前は、佐々木八重。並盛中学校に通ってる」と、言い報告を終え、他の報告を聞いた。「私は、その八重っていう子、いつも霊園に毎晩行ってるってことだよ」と、カノンノが言い、「私は、八重さんは甘い物と可愛い物が好きと聞きました」と、プレセアが言い、「私はその八重って子、変な部活を造ろうとしてるらしいの。何か【神話追究部】っていう部活名らしいよ」と、リタが言い、「俺は、佐々木家からいつも深夜に家を出て行く八重を見るとい話聞いた」と、零が言った。と、それぞれの話を聞き、アンジュに報告をするために、ルミナシアに帰った。

【あの子を を助けて…私達を解放して…】
また、女性の声が聞こえたが、翼達には聞こえて無い様子だった為、黙っておくことにした。

その日の夜、桜花は不思議な夢を見た。とても悲しい夢だったが、目を覚ましたら忘れてしまった。でも、とても悲しい夢だったのは覚えている。

並盛偵察デート（桜花ルート）（後書き）

次回は、今回の話のノンルートです！

並盛偵察デート(カノンルート)(前書き)

今回は前回の話の、カノンルートです。

並盛偵察デート（カノンルート）

並盛へのトンネルを完成させた次の日、昨日と同じメンバーで、再び世界樹の洞窟にやって来た。

今回は、並盛に偵察に行くのだ。桜花達は、トンネルをくぐって並盛に轉移した。

「此処が並盛だ」と零は言い、妹を探すために、手分けして探すことになった。零は商店街、リタは並盛中学校の方面、プレセアは中央公園、カノンは住宅街、桜花はオシャレなグッズの店が立ち並ぶ街の方面を探ることになった。しかし、翼だけが探す場所が無かった。すると、「では、翼は4人の内の誰かと行動をすればいいと思う」と、言い零は「では17時に神社に集合だ」と、言い去って行った。「…じゃあ…」

カノン・グラスバレーは、只今極限の緊張状態だった。その理由は、「大丈夫か？カノン」と、好意を抱いている少年、神裂 翼と二人つきりだからだ。

〈数分前〉

「じゃあ…カノン。一緒に行くか？」と、言い翼はカノンと、住宅街に向かった。

〈リタ視点〉

私は、神裂 翼が好きだ。私の他にも、桜花、カノン、プレセアも、翼が好きだ。それで、私達は【KKK団】を創立させ、翼を振り向かせようとしてるけど、翼が鈍感なせいで、全く進展しない。でも、いつか必ず…

〈リタ視点End〉

翼とカノンは、住宅街を歩きながら、零の妹の情報を集めていた。

「この辺に、ハニーブロンドの髪の毛の女の子のこと、知ってる？」と、カノンノと、翼は道行く人達に聞いたが、分かったのは、その女の子の名前の佐々木 八重だけだった。すると、新たな手掛かりを手に入れた。「嗚呼。八重ちゃんは、毎晩深夜になると、霊園に行くの」と、おばあさんが言った。「なあ、カノンノ。一度その霊園に行ってみるか？」と、翼は言い、カノンノも、「…分かった」と言い、霊園に向かった。

「此処が、霊園か…」と、言つて翼達は霊園に足を踏み入れた。そこで、彼らは一つの墓石を見つけた。ソコには「佐々木

】と、書いてあった。肝心の名前が、土埃や苔で分からなかったが、きつと八重と零の家族の墓石だろう。「…？（何だろう。今…女の人が居た？）」と、カノンノは霊園を見回したが、霊園には、翼とカノンノ以外は、誰も居なかった。（…気のせい？）と、思いカノンノは、翼と共に霊園を去った。

「そうだ、カノンノ。神社に戻る前に、何処か寄つてくか？」と、翼は言った。「じゃあ、スケッチブックとクレヨンを買いたいから文房具屋に行きたいな」と、カノンノは言い、通行人から、文房具屋の場所を聞き、ソコに向かった。（…さっきの女の子、零に少し似ていた。凄く綺麗な人だった。でも、何か…段々と忘れちゃう気がする。そうなる前に描かないと…）と、思い、カノンノはスケッチブックとクレヨンを買った。

カノンノ視点

「なあ、カノンノ。本当にスケッチブックとクレヨンで良かったのか？」と、翼は私に問い掛けた。「うん。丁度スケッチブックとクレヨンが切れかけてたから」と、私は翼に言った。スケッチブックとクレヨンが切れかけてたのは本当だし、あの女の子を翼がジュースを買ってくれてる間に描きたかったのが、最大の理由だ。その女の子は、零と同じでハニーブロンドの髪をしていた。でも、その顔

はとても悲しそうだった。そして、何よりもこのスケッチブックとクレヨンが、私の好きな人、翼が買ってくれた物。ソレがとても嬉しかった。やっぱり私は翼が好きなんだ。途中、ナンパされていた少女…京子もきつと何と無くだけど、翼に恋をしたと思う。でも、私は……………

〔カノンノ視点End〕

17時、翼達は並盛神社に集まり、それぞれの成果を報告して、今日はルミナシアに戻った。

並盛偵察デート(カノンルート)(後書き)

次回は、リタルートです。

並盛偵察デート(リタルート)(前書き)

今回はリタルート

並盛偵察デート（リタルート）

並盛へのトンネルを完成させた次の日、昨日と同じメンバーで、再び世界樹の洞窟にやって来た。

今回は、並盛に偵察に行くのだ。桜花達は、トンネルをくぐって並盛に轉移した。

「此処が並盛だ」と零は言い、妹を探すために、手分けして探すことになった。零は商店街、リタは並盛中学校の方面、プレセアは中央公園、カノンノは住宅街、桜花はオシャレなグッズの店が立ち並ぶ街の方面を探すことになった。しかし、翼だけが探す場所が無かった。すると、「では、翼は4人の内の誰かと行動をすればいいと思う」と、言い零は「では17時に神社に集合だ」と、言い去って行った。「…じゃあ…」

リタ・モルディオは緊張していた。なぜなら、「…大丈夫か？リタ」と、リタの片思いの相手である神裂 翼と二人つきりだからだ。

（プレセア視点）

私は、神裂 翼さんのことが好き。でも、猫が好きの方の like ではなく love の方の好きなんです。でも、翼さんは鈍感なんです。だから全然気持ち伝わってません。でも…いつか必ず…

（プレセア視点 End）

「此処が並盛中学校か…」と、リタは翼と共に、並盛中学校にたどり着いた。早速、零の妹の調査をしようとしたら…「君達、誰？侵入者？」と、謎の少年が尋ねて来た。

「嗚呼。俺達はこの近くに…」と、翼は言いかけたが、何かを感じ、リタを横抱きにして回避した。（ひゃあああああ！！！！？？？つ…翼が、わ…私を…横抱きに○）と、頭のパンクしたりタを安全な場所に下ろし、翼は拳を構えた。「侵入者は、噛み殺す」

と言い、少年はトンファーを構えた。「たく…先ずは黙らせるか」と、眩き翼は少年に接近した。「先ずはコレだ！【三斬華】」と、翼は三連突きを行ったが、「ワオ。面白いね」と、少年は難無く防御した。すると、「くらえ！【ファイアーボール】」と、リタが少年に5〜6個の火の玉を飛ばした。しかし、少年はソレを難無く回避し、リタに接近した。「…リタ！（くっ。仕方ないが、アレを使うか）」

翼は足元にホスチアを収束させた。そして、【世界樹を守護せし大地の力、我が声に応え力を捧げよ（…15%で良いぞ…ノーム）】と、唱えた。そして、大地が、空が、全てが揺れた。

〈桜花視点〉

（精霊の力が解放された。…こんなことできるのは、クラトスとお父さんと叔父さんとミラとイバルと私と…翼だけ。もしかして、翼に何かが起こった？）翼の無事を祈りつつ、私は零の妹の手掛かりを探した。（翼、リタ…無事でいて…）

〈桜花視点End〉「…はあ…はあ…俺達の…勝ちだ…俺達はただ、零の妹の手掛かりを…知りたいんだ。教えてくれ。佐々木っていう、ハニーブロンドの髪の女の子のことを…」と、翼は少年に尋ねた。リタは倒れそうな翼を支えている。「…佐々木 八重。この中学校でハニーブロンドの髪の女子は佐々木 八重しかいない」と、少年は言った。「他に、八重のこと。知ってることがあつたら教えてくれ…」佐々木 八重は、顧問もいない、部員も本人以外誰もいない部活の申請書を、いつも僕に持って来る。【神話は作り話なんかじゃ無い。実際に存在する。私はソレを追究して証明するための部活が、場所が欲しい】って。毎日毎日持って来るんだ。神話なんて、所詮作り話なのに」と、少年は言い終えたら、「…何が、何が作り話だ…糞ガキ。神話は…実在してるんだよ」と、翼が地面に拳をたたき付けながら言った。「…帰るぞ、リタ。こんな神話を侮辱する奴が居る所になんて長居したく無い」と言い終えたら、翼はリ

夕と共に並盛中学校を去って行った。

「そうだ、リタ。少し寄って欲しい所がいくつかあるんだ」と言い、翼は街へと赴いた。ソコで京子と出会い、とある物を買ひ、京子と別れた。

「リタ。プレゼントだ」と、言いながら翼はリタに猫のストラップを渡した。「あ、ありがと」と、リタも顔を赤らめながら、受け取った。「じゃ、並盛神社に行きますか」と言い、翼とリタは神社へと赴いた。その後、報告をそれぞれ発表し、ルミナシアへと帰還した。

並盛偵察デート(リタルート)(後書き)

次回はプレゼアルート

並盛偵察データ（プレゼアルート）（前書き）

今回はプレゼアルート

並盛偵察デート（プレセアルート）

並盛へのトンネルを完成させた次の日、昨日と同じメンバーで、再び世界樹の洞窟にやって来た。

今回は、並盛に偵察に行くのだ。桜花達は、トンネルをくぐって並盛に轉移した。

「此処が並盛だ」と零は言い、妹を探すために、手分けして探すことになった。零は商店街、リタは並盛中学校の方面、プレセアは中央公園、カノンノは住宅街、桜花はオシャレなグッズの店が立ち並ぶ街の方面を探ることになった。しかし、翼だけが探す場所が無かった。すると、「では、翼は4人の内の誰かと行動をすればいいと思う」と、言い零は「では17時に神社に集合だ」と、言い去って行った。「…じゃあ…」

プレセアは只今緊張気味だった。なぜなら、「大丈夫か？プレセア」と、プレセアが好意を抱いている少年、神裂 翼と二人つきりだからだ。

〈桜花視点〉

私は翼が好き。でも、彼は気付いてくれない。でも、私は翼以外の人を好きにはなれない。たとえば、翼に振られても…名前をくれた貴方のことが…

〈桜花視点End〉「じゃあ、零の妹の情報を集めるか」「はい」
〈数分後〉

「集まった情報を確認するぞ。零の妹の名前は佐々木 八重。噂だと、甘い物と可愛い物が好き…か」「可愛らしい一面がありますね。零さんの妹だから男らしい方かと思いました」「…零の妹…俺も少し思った。そうだ！プレセア、街に大型のゲーセンが出来たらしいが、行くか？」と、翼は提案して来た。「…UFOキャッチャー…」

「猫のぬいぐるみの機種があれば、やってプレゼントしてやる」「
…！猫、本当ですか？」「嗚呼。俺のゲームの腕前、知ってるだろ」
「…分かりました。行きましょう」と、会話を終え、翼とプレセア
は街へと向かった。途中、迷子になりかけたが、偶然ナンパされて
いた京子を助け、お礼にゲーセンまで案内してもらった。

「楽しかったな、プレセア」「はい。この猫のぬいぐるみ、大事に
しますね」ゲーセンで沢山遊び、プレセアのために、UFOキャッ
チャーの猫のぬいぐるみを取り、他の3人と、案内してくれた京子
のプレゼントを買い、別れ際に京子にプレゼントを渡し、翼とプレ
セアは、神社へと向かった。その間プレセアは、猫のぬいぐるみを
大事そうに抱いていた。そして、話を聞いて一同はルミナシアへと
帰還した。

並盛偵察デート（プレゼント）（後書き）

次回はその頃の零。つまり、単独で調査をしていた零の話です。

その頃の零 ? (前書き)

今回は単独行動をしていた零の話です。また、この話は、二部構成です。

その頃の零？

並盛へのトンネルを完成させた次の日、昨日と同じメンバーで、再び世界樹の洞窟にやって来た。

今回は、並盛に偵察に行くのだ。桜花達は、トンネルをくぐって並盛に轉移した。

「此処が並盛だ」と零は言い、妹を探すために、手分けして探すことになった。零は商店街、リタは並盛中学校の方面、プレセアは中央公園、カノンノは住宅街、桜花はオシャレなグッズの店が立ち並ぶ街の方面を探ることになった。しかし、翼だけが探す場所が無かった。すると、「では、翼は4人の内の誰かと行動をすればいいと思う」と、言い零は「では17時に神社に集合だ」と、言い去って行った。「…じゃあ…」

〈零視点〉

あの4人は翼に好意を抱いている。まあ、翼が誰を選んで今はどうでもいい。とにかく妹の情報を集めないとな。

〈零視点End〉零が任されたのは、商店街だ。此処は零が、いつも家出をした時に匿ってくれた人達から話を聞いて行く。つまり、昔馴染みが沢山居るから零は此処を選んだのだ。現にこうして歩いていると、「あら零君。大きくなったね〜」「あ、零君だ」「おやぶーん!」と、商店街の叔母さんや、昔、探検隊ごっこをしていた時の隊員達が、12年振りね〜と、言いながら零の周りに集まった。(そうか、あの家から追放されてもう12年か…)と、零は懐かしさと10歳の頃に、捨てられた寂しさに浸りかけたが、すぐに本題に入った。「なあ。12年前に俺に妹が出来たが、知ってるか?」と、聞いたが、商店街の人達は「夜中に商店街を横切るハニーブロンドの髪の女の子の姿は見るけど、名前は分からない」と答えた。(…佐々木家はこの商店街を通った先に有る…つまり、俺の妹も家

出をしているのか？」と考えていたら、「あ、親分！」「親父、誰だ？この人？」と懐かしい声と、その人の息子の声が聞こえた。振り返ると、懐かしい人物がいた。「剛さん、そちらは息子ですか？」「嗚呼。息子の武だ。武、挨拶しろ」「山本 武です…って、何かアンタ委員長に似てるな。髪の色とか」と、挨拶ついでに、重大な情報が手に入った。「武、その子は俺と同じハニーブロンドの髪をして、佐々木という名字だったか！？」「はい。佐々木 八重という名前です。どうしたんですか？」「済まない。何でもない（八重…家出…キーワードがバラバラだな。まあ皆の報告を待つか）ところで武、その服装からして、お前は野球部か？」「…え…そうですね、待てよ…零…あつ！もしかして、貴方って親分！？」と、山本は零を改めて見た。「嗚呼。確かに俺は、野球の試合はいつも助っ人で出てた。ソレがどうかしたか？」と、零は答え山本に尋ねた。「いや…今日、練習試合が有るんだけど、皆練習だからって、サボってさ…コレだと不戦敗しちゃうんだよ。いくら練習でも試合だから、負けたくないんだよ」と、言い山本は、「そろそろ集合時間だから」と言い、去って行った。「（…野球か…）なあ、その練習試合は何処で行われるんだ？」

〈山本視点〉

練習試合開始まで、あと10分。此処に居るメンバーは8人。野球は最低でも各ポジションの計9人が必要だ。つまりあと1人足りない状態だ。つまり、このままだと不戦敗だ。いくら練習でも、試合だから負けたくないんだ。けど、もう駄目だ。こんな時に、伝説の助っ人の零さんがいたら…

「セーフ!!!審判、練習試合だから一般人が出場しても問題なし！だよな？」と、Fate/Zeroのアサンの仮面を付けた謎の男が言った。あの人って…零さんだよなあ…ハニーブロンドの髪が隠せてないし。すると、俺の心の声が聞こえたのか、「…少年。俺のことはZeroと呼んでくれ」…Zeroって…思いつ切り自分分は零だってアピールしていますよ…零さん

まあ、練習試合だからお祭り騒ぎで構わないということでも、俺達の練習試合が始まった。
く山本視点Endく

その頃の零？（後書き）

次回、遂に試合開始。果たして、Zero（零）を助っ人にした並盛中学校は無事に勝てるか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1887z/>

リボン×マイソロ3 + エクシリア雪、舞い散る

2011年12月18日03時52分発行